

## 正誤表

電気製鋼 第90巻2号(2019年)に誤りがございましたので、下記の通り訂正いたしますとともに深くお詫び申し上げます。

訂正箇所	誤	正
p95 左側 5～12行目	N100の $\gamma'$ 単相域は調査した合金のなかで最も狭く、IN100をベースとした合金ではTi/AlおよびTi+Alの減少と共に $\gamma'$ 単相域は増加する。 $\gamma'$ 単相域の増加とともに1000℃における $\gamma'$ 相率が低下する傾向にあるが、Ti+Alを固定しTi/Alを減少した合金(Alloy 1および2)はTi/Alを固定しTi+Alを減少した合金(Alloy 3および4)に比べて $\gamma'$ 相率が高い。鑄造時の冷却過程において、凝固収縮などで発生する熱応力に対して、 $\gamma'$ 単相域の確保は延性を確保し製造性を向上させると考えられる。	IN100の $\gamma'$ 単相域は調査した合金のなかで最も狭く、IN100をベースとした合金ではTi/AlおよびTi+Alの減少と共に $\gamma'$ 単相域は増加する。 $\gamma'$ 単相域の増加とともに1000℃における $\gamma'$ 相率が低下する傾向にあるが、Ti+Alを固定しTi/Alを減少した合金(Alloy 1および2)はTi/Alを固定しTi+Alを減少した合金(Alloy 3および4)に比べて $\gamma'$ 相率が高い。鑄造時の冷却過程において、凝固収縮などで発生する熱応力に対して、 $\gamma'$ 単相域の確保は延性を確保し製造性を向上させると考えられる。
p95 右側 5～6行目	Fig. 4に $\gamma'$ 単相域と $\gamma$ - $\gamma'$ 共晶面積率を示すが、 $\gamma'$ 単相域の減少により $\gamma$ - $\gamma'$ 共晶面積率は増大する。	Fig. 4に $\gamma'$ 単相域と $\gamma$ - $\gamma'$ 共晶面積率を示すが、 $\gamma'$ 単相域の減少により $\gamma$ - $\gamma'$ 共晶面積率は増大する。
p98 Fig. 10, 11 の縦軸	(MPa/cm <sup>3</sup> g <sup>-1</sup> )	(MPa·cm <sup>3</sup> g <sup>-1</sup> )

電気製鋼／大同特殊鋼技報 第91巻 第1号(不許転載)

2020年7月3日 印刷

2020年7月10日 発行(年2回発行 非売品)

編集発行人 松村 康志

発行所 大同特殊鋼株式会社 技術開発研究所

〒457-8545 名古屋市南区大同町2-30

<https://www.daido.co.jp/about/rd/index.html>

印刷所 株式会社大同ライフサービス

〒457-0819 名古屋市南区滝春町9

<http://www.daidolife.co.jp>

DENKI-SEIKO Vol.91 No.1 2020 All rights reserved.

Published by Corporate Research & Development Center, Daido Steel Co., Ltd.

Address : 2-30 Daido-cho, Minami-ku, Nagoya, Japan 457-8545

Tel. 81-52-611-9646 Fax. 81-52-611-2603

お問合せ先 大同特殊鋼株式会社 技術開発研究所内 電気製鋼事務局

〒457-8545 名古屋市南区大同町2-30

Tel. 052(611) 9646 (直) Fax. 052(611) 2603